



- ・自分たちの団体を取材してほしい
- ・こんな話題を取り上げてほしい
- ・ユニークな活動や地域のために頑張っている団体・人を知っている



誰もが安心して 外出できるまちへ

トイレマッププロジェクトの挑戦！



先天性の脳性まひがあり、身体に障がいのある多賀城在住の菅原洋介さんは、車椅子で生活する友人たちと話す中で、多目的トイレに関する大きな課題に気づきました。行き先に多目的トイレがあることはわかっている、自分の身体や車椅子に合う設備なのか、入口の幅は十分かといった具体的な情報がなく、実際に行っても使えないことがあります。そのため、不安を抱えたまま出かけたり、外出自体を諦めるといった状況が少なからずありました。こうした声や経験を受けて、菅原さんは「困っているなら、自分たちで調べて、自分たちで社会に届けよう」という想いで、多目的トイレの詳細を調査して共有するため、NPO法人みんなのトイレマッププロジェクトを立ち上げました。

大切にしているのが「当事者の目線」で情報を集めること。調査項目は室内の寸法、ドアの幅、呼び出しボタンの有無など9項目。実際に足を運んで調査した内容を詳細に発信しています。同じ悩みを持つ人たちの外出の不安を少しでも減らしたい。そんな想いが活動の出発点になっています。

「単にトイレを紹介することではなく、バリアフリー情報を〈誰かの一步〉につなげることが目標」と話す菅原さん。そこには、障がいのある人だけでなく、高齢者、小さな子ども連れ、妊婦など、誰もが安心して外出できる地域になってほしいという願いがあります。今後は、駅のエレベーターやエスカレーター、多目的トイレまでの移動経路などを可視化するプロジェクトや地域の学生や市民、行政、企業などと協働でバリアフリー情報をつくる活動、そして、菅原さんがお住まいの多賀城市内での活動についても、東北学院大学多賀城キャンパス跡地の開発や観光による人の増加を見据え、展開を視野に入れています。

トイレマップ



↑外出先でも安心して使えるトイレが、地図上からひと目で探せるマップです。スマートフォンでも簡単に利用することができます。



みんなのトイレマップ



みんなのトイレマップ
仙台版

NPO 法人みんなのトイレマッププロジェクト

多様な人が安心して利用できる公共トイレの位置や設備情報を収集し、マップ化して発信することで、誰もが外出しやすい街づくりを目指しています。



ホームページ



↑トイレの入り口の幅を計測する菅原さん。「バリアフリーは、一部の人が考えるものではなく、地域で育てていくもの」という想いがあります。



↑車椅子ユーザーも調査に参加。「困っている人自身が地域をより良くする担い手になれるということを伝えたい」と話します。



ゆっくりさんママのこころ休まる居場所



子育ての悩みを一人で抱え込まないで
発達に特性のある子どもを育てるお母さんたちが、
気軽につながり、支え合うための場があります。



同じ気持ちがつながる時間

多賀城市を拠点に活動している「発達凸凹ゆっくりさんのママの会」。
発達がゆっくりな、就学を考え始める年中児以上の子どもを育てるお母さん
たちが、おしゃべりや情報交換をしながら、ほっと一息つける場になっています。

活動の背景には、子どもの発達に悩みながらも、誰に相談していいのかわ
からず、一人で悩んでしまうお母さんたちの存在があります。日々の小さな悩
みや不安を「同じ立場、同じ気持ちのお母さん同士」で話せる場をつくりた
いと感じた人たちが集まり、2021年に活動をスタートしました。日頃のモヤモ
ヤを吐き出したり、相談したり、おしゃべりをしながら交流することで、参加
者が笑顔で家に帰れることを何より大切にしています。また、安心して話せる
場にするため、「聞いた話は外には持ち出さない」という約束を共有し、参加
者が「ここなら本音話しても大丈夫」と感じることができた空気を育てて
きました。聞かれても話したくないことは話さなくてもいい。聞かれていなく
ても話したいことは話してもいい。心の準備ができた時だけ、自分のペースで
言葉にしていける、そんな気軽に温かな時間が流れています。

笑いと涙を分かち合う安心サロン

座ったままでできる簡単なストレッチを取り入れ、体と心をゆっくりほぐしなが
らリラックスした雰囲気ではじめられます。子どもの特性との向き合い方をはじ
め、病院や薬の選び方、今後の進路、家庭内での出来事など、話の内容は多岐
にわたります。ペアレントメンター（自らも発達に特性のある子の子育てを経験
し、相談支援に関する研修を受けた方）の有資格者が参加することもあり、「3
年先を見て動く」「“こうあるべき”を手放したことで子どもと向き合えるよう
になった」といった実体験からのアドバイスが共有されることもあります。毎回、参
加者のおしゃべりは次から次へと尽きることがなく、笑い声があふれる一方、話
に深く共感し、思わず目頭を押さえる方の姿も。専門機関や支援制度に関する
情報交換も行われ、真剣に耳を傾ける様子も見られます。

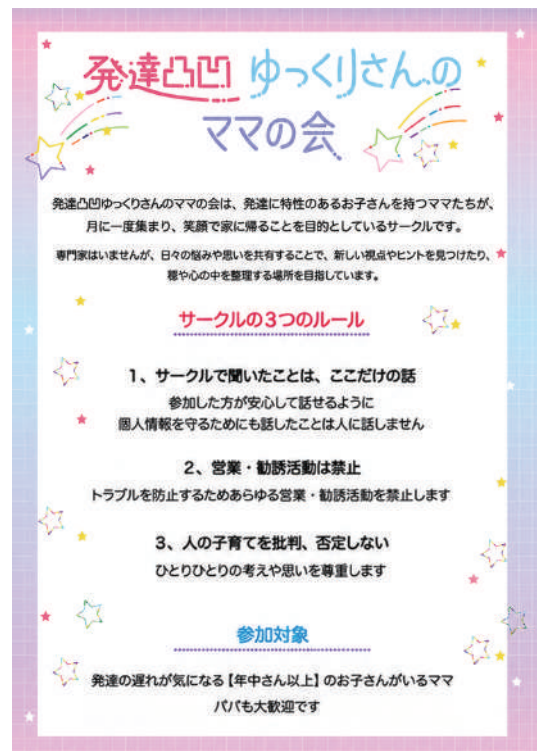
「こういった場があることを必要としている人に伝えたい」「参加者と会話して
共感することで安心につなげてほしい」と話す代表の太友さん。これからも「マ
マ同士が支え合い、ありのままでいられる場所」として、ゆっくりと歩みを進めて
いきます。



↑代表の太友さん。



↑輪になって座り、心の距離も近づけながらお話ししていきます。
プライバシー保護のため、参加者の写真などは残さないよう配慮を
しています。



↑サークルのルールなども記載されている温かみのあるチラシは、メ
ンバーが心を込めてデザインしました。

団体紹介

発達凸凹 ゆっくりさんのママの会



ホームページ



Instagram



note



「tag(たっぐ)」には、多賀城(tagajo)の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域を
つくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ



ブログ